〈子どもの可能性について〉のお悩みシリーズ 第3弾

子どもの「絵や音楽」の才能、どう磨く？

絵やピアノが上手な周りの友だちと比べて
「うちの子は全然…」と嘆くお母さんは少なくありません。
絵画や音楽の才能について、徳田先生に相談してみましょう。

絵も音楽も、子どもが〝好き〟と思うことが大切

習い事の定番であるピアノですが、昔とは考え方が大きく変わってきているのをご存知ですか？ 一般の教室でも、楽譜通りに弾く技より、聴く・歌う・弾く、といった音楽の面白さを体感することを重視するようになりました。

これは絵画にも言えることで、まずは「ピアノの時間が待ち遠しい」「描いた絵をママに見せたい」という気持ちを持たせることが大切です。技術は叩き込めば習得できますが、子ども自身が〝好き〟でなければ、必ず途中で挫折します。

どんなに下手でも褒めてあげましょう

幼児期に注意したいのは、大人の知恵を与えないこと。子どもが大好きな塗り絵も、塗り方や色を指図して描かせてはいけません。線をはみ出しても、どんな色を使っても、とことん褒めて「もっと描きたい」と思わせてあげましょう。

また、絶対音感だけは3歳からの訓練で身に付くと言いますが、本当に必要でしょうか。絶対音感を持たない著名な音楽家も大勢います。目先の技術より、ぜひ将来の〝伸び〟に期待してあげてください。

次号は…

「科学的思考」における子どもの可能性についてお答えします。

Kidshug キッズハグ

徳田先生監修〝子育て・育児支援サイト〟もチェック！

子育てに役立つ情報が盛りだくさん。
パソコンやスマートフォンで気軽にご覧いただけます。

パソコン・スマホでアクセス!! ▶ キッズハグ 検索
http://kidshug.jp

徳田克己 先生

筑波大学医学医療系教授、教育学博士、臨床心理士。専門は子ども支援学、子育て支援学、気になる子どもの保育。アジア子ども支援学会会長、イオン1パーセントクラブ理事。「筑波大学発ベンチャー子ども支援研究所」の所長として、幼稚園や保育園の先生たちのコンサルタントとしても活躍。年間100件以上の講演を各地でおこない、育児に悩む方からの相談に応じている。著書に『親を惑わす専門家の言葉』、『お母さんがうなずいた数だけ子どもは伸びる』、『育児の教科書「クレヨンしんちゃん」』など。